

剣上達秘訣・中山博道訓 [川島次郎記録帳]

剣上達の秘訣

- 1・基本正確 姿勢 構え 刀の持ち方 目付 足踏 抜付け 斬り付
- 2・真剣の気合で全力を尽せ
- 3・研究工夫 一寸した頭の働^{かつげん}きで豁然として悟る [豁然=迷いが去ってからっと]
- 4・熱心なれ 苦痛を忍べ 心弛めず 一生修業
- 5・慢心起こすな 慢心は恐るべき敵也
- 6・公明なる精神 誤魔化し稽古は禁物
- 7・剣居道と生活の合致 日常生活に得る所大

剣道十二か条・中山博道範士

- 1条・剣道者は己を知り、他を知らねばならぬ。自分のみを知って他を知らざれば必勝得難く、他の欠点のみ知って己の欠点を知らぬは敗を取る基である
- 2条・上手に習ひ、下手に学ぶ事肝要也。弟子もまた師也とは名言である
- 3条・剣道は心と心の勝負である。心の工夫鍛錬であるから技の能^{のう}、不能^{ふのう}は方便である
- 4条・極意とは道の極致^{きょくち}である。即ち目標・理想であるから、剣の極意とは理想であって真の人間となることである
- 5条・以心伝心とは、言葉に表し得ざる体験であって、其の体験の分量が同じ程度になつて始めて、彼我^{かれわれ}の心が相照らし応ずる精神作用を言うのである
- 6条・真の芸術とは手技^{てわざ}を離れて心術に到達することである
- 7条・剣道の極致は彼我合和して全一となる事である。かくてこそ勝敗の念なく和平に帰し「真如境界」 [真如=永久不変絶対の真理] [境界=果報として各自に定められた境遇・身の上]
- 8条・撃たるるは迷ふからである。撃たんと思ふも迷ひである。平然たる時真の勝を生ずるものである。迷わずして撃たるるは死物也 [死物=役に立たないもの]
- 9条・勝は己の力に有らずして、敵に障りがあるからである。負くるは敵強きに非ず、己に障りがあるからである
- 10条・勝敗の念を離れて始めて勝敗を感じ得るもので、故に敵に勝つことを忘れて、勝自ら生じるものである
- 11条・修業は無限也。先輩に追いつくは易く、後輩に追いつかれざるは、難中の難也至言也 [至言=この上なく言い当てている言葉]
- 12条・道、極意^{ごくい}に達するには何者に対しても親切であらねばならぬ。生あるもの、生なきもの、人間同士は勿論、動物植物、我が身〇の器物にまでも親切心に満ち満ちたる時、身辺皆味方になるものである